

## 【評価の方法】

### 1 財務面に係る評価

#### 目標の達成状況

- ① 5か年合計での経常利益確保を目標とするもの  
 → 目標値と決算累計値見込値を比較する。  
 令和7年度の決算累計値見込値が、
- ・ 目標以上の経常利益を確保する見込みであればA評価、
  - ・ 目標とする経常利益を概ね確保する見込みであればB評価、
  - ・ 目標とする経常利益を確保できない見込みであればC評価とする。
- ② 毎期の経常利益確保を目標とするもの  
 → 経常利益を確保すればA評価、経常損失の場合はC評価とする。

区分	評 価	
A	①目標達成（100%以上）	②目標達成（経常利益）
B	①目標を概ね達成 （80%以上～100%未満）	
C	①目標を下回る（80%未満）	②目標を下回る（経常損失）

### 2 事業面に係る評価

#### 目標の達成状況

- ① 5か年合計での達成を目標とするもの  
 → 各年度の計画累計値と実績累計値を比較する。
- ② 每期設定した計画業務量等の達成を目標とするもの  
 → 毎期の目標値と実績値を比較する。

区分	評 価	
A	目標達成（100%以上又は0件）	
B	目標を概ね達成（80%以上～100%未満）	
C	目標を下回る（80%未満又は1件以上）	

### 3 総合評価

1をベースに、2及び事業の取組実績等を総合的に勘案して評価する。

区分	評 価
A	目標達成
B	一部未達成だが、概ね目標どおり
C	目標を下回る

【経営指標の算出方法】（単位：％）

1 経営資本営業利益率

経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が良い。

$$\frac{(\text{営業収益} - \text{営業費用})}{\text{経営資本}} \times 100$$

※ 経営資本 = { 期首 ( 総資産 - 建設仮勘定 - 投資 ) + 期末 ( 総資産 - 建設仮勘定 - 投資 ) } / 2

2 営業収支比率

経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$$

3 料金回収率

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す。

$$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

※ 給水原価 = { 経常費用 - ( 受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附带事業費 ) - 長期前受金戻入 } / 年間総有収水量

4 経常収支比率

経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\frac{(\text{営業収益} + \text{営業外収益})}{(\text{営業費用} + \text{営業外費用})} \times 100$$

5 流動比率

短期的（1年以内）な支払能力を表し、高いほど経営の安全性と信用度が高い。

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

6 自己資本構成比率

総資本に対する自己資本の割合であり、高いほど財務基盤は安定している。

$$\frac{(\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益})}{(\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益} + \text{固定} \cdot \text{流動負債})} \times 100$$

7 有形固定資産減価償却率

償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す。

$$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$$

8 管路経年化率

法定耐用年数を越えた管路延長の割合を表す。

$$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$$

9 管路更新率

当該年度に更新した管路延長の割合を表す。

$$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$$